

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
国際ホテル・ブライダル専門学校		平成16年1月16日	星野 徹	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通7番町935 NSGスクエア4階 (電話) 025-227-5600				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日	池田 祥護	〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2番町541 (電話) 025-210-8567				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化・教養専門課程	葬祭ディレクター科	平成16(2004)年度	-				
学科の目的	本学科は葬祭に関する専門教育を行い、高度な専門技術、技能を習得させ、ホスピタリティ精神溢れる有意な人材の育成・輩出を通じ、地域社会、国家、国際社会の発展に寄与・貢献することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	葬祭業界のあらゆるシーンに対応するために必要な専門知識、技術、業界で不可欠なホスピタリティ・マインド等を実践を通して身につけます。【取得可能な資格】葬祭ディレクター技能審査2級・こころ検定4級・営業力強化検定など							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,715 単位時間	1,030 単位時間	525 単位時間	160 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
20人	16人	0人		0%	0%			
就職等の状況	■卒業生数(C)		6人					
	■就職希望者数(D)		5人					
	■就職者数(E)		5人					
	■地元就職者数(F)		4人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		80%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		83%					
	■進学者数		0人					
	■その他							
	(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
	評価団体: ○○○○	受審年月: ○年○月	評価結果を掲載したホームページURL		○○○○			
当該学科のホームページURL	https://www.wish-web.com/gakka_hotelbridal.html							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		1,715 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		160 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		165 単位時間						
うち必修授業時数		1,715 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		160 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		165 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		70 単位時間						
(B: 単位数による算定)								
総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		○○ 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		○○ 単位						
うち必修単位数		○○ 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		○○ 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		○○ 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		○○ 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		4人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		7人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

社会で活躍できる人材、社会が求める人材を育成し、職業に必要なスキルを身につけ、能力を向上させるため、企業や協会が委員として参画し教育課程の編成において当該企業・協会との密接な連携により、より実践的な職業教育指導を企業と連携して行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会の意見はカリキュラム検討会議で意見交換審議された後、校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年10月4日現在

名前	所属	任期	種別
齋藤 毅	新潟県葬祭業協同組合 理事長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
渡辺 安之	株式会社花安新発田斎場 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
竹内 正明	国際ホテル・ブライダル専門学校 副校長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤田 愛子	国際ホテル・ブライダル専門学校 教務部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
			—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期、後期)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月12日(木)13:00～13:30頃

第2回 2025年3月13日(木)13:00～13:30頃

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会の意見を受け、授業科目ごとに既存のカリキュラム内容や進め方の改善点を洗い出し、改善を図っている。

・「インターンシップ」について、現在5日間となっているが受入れ期間中に葬儀がない場合は、仕事のイメージがつかめない場合がある。インターンシップの時期や期間の見直しが課題。

・「カリキュラム」について、将来をイメージさせるために企業見学やインターンシップ以外で業界や現場に触れる機会を増やしていく。また、カリキュラムのゴールを「資格取得」と「就職」とするのではなく、自分のキャリアプランを考えた5年後、10年後の姿を見据えた仕組みづくりが必要。

・「学生指導」について、専門知識以外に必要なこととして、社会人として基本的な「上司との信頼関係づくり」や「メモを取る、挨拶をする」などの行動が取れる人材の育成を目指すこととする。

・「就職支援・業界の人材確保策」として、葬儀社が学生の様子を見に来たり業種限定の企業説明会を開くなど、学校と企業が連携して行なうことを今後検討していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校におけるインターンシップは学生自らの専門分野、将来進みたい分野に関連する企業等での就業体験をすることによって、仕事をする意味を認識し、自らの適正を見つめながら将来像を選定することにあります。専門学校生としての実学を身に着け、有能な「人財」として活躍できる人材育成を目指す。学生は異なる体験をすると同時に、実社会での研修であることにより、責任感、自分の役割やレベルなどを実感し、自らのキャリア形成について、具体的なイメージを描くようになることを目指す。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

①「インターンシップ研修」

事前に企業とインターンシッププログラムの内容を協議し、実施する。学生を教育的視点で受け入れられる企業等を求め、その企業と本校の協力により、一人前の社会人を育てる社会の場として位置づける。1年次7～8月の約1週間葬儀社などで実施。提携先は毎年15社程度。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の社会人基礎力を中心に研修終了時に企業から評価を受ける。12月の約1週間葬儀社などで実施。スタッフから葬儀現場を体験させてもらうことで、希望職種への理解を深める。

②「学内での実習」

葬祭企業で必要とされる知識、技術、技能を習得するために、業界人を講師として実践的な職業教育（「業界セミナー」「司会実習」「納棺実習」「接遇・受注実習」「幕張・祭壇設営実習」など）を実施している。授業終了時には制限時間一人ひとり発表するなどして評価を受ける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ホスピタリティコミュニケーション	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ホスピタリティの学ぶために、様々なプロの取り組みを知り、共感力を磨く。	一般社団法人 日本ホスピタリエ協会
公衆衛生学	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	遺体からの感染症や処置に対する知識を身につける。	有限会社 花久葬祭
接遇・受注（受注施行）	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	葬儀の打ち合わせにおいて必要な接客マナーや言葉遣い、商品知識などを学ぶ。	豊栄セレモア 株式会社
葬祭フラワーⅠⅡ	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	生花祭壇の設営方法やアレンジ方法を実践で身につける。	アトリエ モーイ ブルーム
祭壇設営・幕張	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自宅飾りを基本として祭壇の設営や幕張を実践的に学ぶ。	株式会社ビップ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

国際ホテル・ブライダル専門学校「研修等に係る諸規程」に基づき、本校の教員は専門分野において、最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されている。そのため、法人本部及び外部機関と連携し、全教員が学生指導力向上のために各自「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう務めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	葬儀社向け分業体制の構築方法	連携企業等:	船井総研グループ
期間:	2024年9月27日	対象:	葬祭業経営者
内容:	葬祭業務における分業体制の構築について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	マネジメント基礎研修	連携企業等:	NSGホールディングズ
期間:	2024年6月28日	対象:	全員
内容:	管理職を取り巻く環境の変化を理解し、多様なメンバーを輝かせるマネジメントを学ぶ		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	成長する葬儀社のためのセミナー～葬儀社経営の羅針盤～	連携企業等:	株式会社エンディング総研
期間:	2025年10月31日	対象:	葬祭業経営者
内容:	AI・IT活用方法、終身サポート事業、人事制度について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	対人コミュニケーションとプレゼンテーション	連携企業等:	NSGホールディングズ
期間:	2025年9月10日	対象:	ホテル科管理職
内容:	コミュニケーションスキルの習得		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

より実践的な職業教育にかかる活動を評価し、改善・支援することにより、学生が関係業界のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指した学校評価を行うことを目的とする。学校が実施している学生向上アンケート、学生意識調査、保護者アンケート等の資料に基づく自己評価に対して、学校関係者評価委員会からの評価結果を教育活動その他学校運営の改善に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価報告書に対する学校関係者委員会の意見をもとに、学校運営及び教育活動に活用している。学校関係者委員会の意見、評価結果は報告書としてまとめ、教職員にも開示し意見や改善策を提案させる等を行い、対応を検討後可能なものは実施している。具体的には学校関係者委員会の提言により、「学校通信をSNSを使って保護者用に発信する」「個人で見つけてくる教職員研修の推進」「国内外資系ホテル研修」等が検討、実施されている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高野 潤	ホテルイタリア軒 総支配人	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
関根 伸春	新潟日米協会 参与	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
河谷 由理江	卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wish-web.com/openinfo.html>

公表時期: 2025年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・教育機関として、その教育活動や取り組みについて企業等へ説明責任を果たす。
- ・教育活動等の情報公開を通じて、本校の教育の質的向上を図る。
- ・学校全体の状況は把握できるような情報を提供することで、関係業界等との連携・協力による本校の教育活動の改善や、本校に対する社会全体の信頼を得る。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標
(2) 各学科等の教育	学科・コース紹介
(3) 教職員	講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	長期インターンシップ、就職サポート・業界で活躍する卒業生
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	入試・学費について、各種奨学金・教育ローン
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	キャンパスライフ 海外研修旅行
(11) その他	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wish-web.com/openinfo.html>

公表時期: 2025年10月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	教員		
1	○			キャリアデザインⅠ	学校生活を送るためのルールを知る。仲間づくりを通じて、コミュニケーション力を高めるワークを行う。	1通	170	○			○	○					
2	○			キャリアデザインⅡ	社会人になる前の心と体の準備を行う。自分の将来を考え、企業でのキャリアデザインを行う。	2通	110	○			○	○					
3	○			就職対策	専門業界の動向や様々な企業を研究、分析し、就職活動に向かって準備を整える。	1通	70	○			○	○				○	
4	○			ビジネス実務Ⅰ	インターンシップ、就職活動において必要なマナーを学ぶ、ロールプレイで定着をはかる。	1後	15	○			○	○					
5	○			ビジネス実務Ⅱ	ビジネスシーンにおいて必要な礼儀や所作を習得します。	2後	15	○			○	○					
6	○			実践行動学Ⅰ	半年ごとの目標を設定し、目標の実現を目指すための思考力（意欲的な心構え）を学ぶ。	1通	15	○			○	○					
7	○			実践行動学Ⅱ	半年ごとの目標を設定し、目標の実現を目指すための思考力（自分の可能性を広げる）を学ぶ。	2前	5	○			○	○					
8	○			コミュニケーション	あらゆる場面でよりスムーズなコミュニケーションをとるための技術を身につけ、初級検定合格を目指す。	1前	25	○			○	○					
9	○			ホスピタリティコミュニケーション	業界の“今”のおもてなしの視点から、調査、考察、意見交換をしながら、ホスピタリティを学ぶ。	1・2通	20	○			○	○	○				
10	○			ソフトウェア活用実習Ⅰ	ビジネス文書作成に必要なパソコンスキルを学び、word検定3級合格を目指す。	1前	40	○			○	○					
11	○			ソフトウェア活用実習Ⅱ	データ入力、表計算、グラフ作成、データベース操作のスキルを学び、Excel検定3級合格を目指す。	2前	35	○			○	○					
12	○			日常英会話Ⅰ	習熟度別に英語教材を使い、日常英会話を学ぶ。	1通	25	○			○	○				○	
13	○			日常英会話Ⅱ	習熟度別に英語教材を使い、日常英会話を学ぶ。	2通	25	○			○	○					
14	○			海外研修	現地のホテル、ブライダル施設の見学や講義、業務の体験を通じて国際交流、異文化理解につなげる。	1前	25	○			○	○					
15	○			センスアップセミナー	ウォーキング・メイク・話し方等、就職活動を始める前に、多方面からセンスを磨く。	1通	15	○			○	○					
16	○			イベントプロデュースⅠ	みんなでイベントを創る中で、チームワーク、伝える力、報・連・相、組織の仕組みなどを学ぶ。	1通	80	○			○	○					
17	○			イベントプロデュースⅡ	培ってきたチームワーク、伝える力、報・連・相、組織の仕組みなどを発揮し、専門分野のイベントを企画する。	2通	160				○	○	○	○			
18	○			インターンシップ研修	国内外の葬儀社で、プロの現場を体験しながら、サービス案に対する理解を深める。	1通	70			##	○	○					
19	○			卒業制作	2年間の学習の集大成として、お客様や業界のニーズに合ったイベントを企画・作成する。	2通	50	○			○	○					
20	○			葬儀概論Ⅰ	葬祭に関する専門用語を知り、臨終から法要までの流れや宗教、歴史や現状等を広く学ぶ。	1通	140	○			○	○					
21	○			葬儀概論Ⅱ	姿容する地域社会や家族問題、葬祭業に求められる社会的責任と役割や宗派における歴史や文化、風習を学ぶ。	2通	110	○			○	○					
22	○			葬祭ディレクター検定対策講座	葬儀の歴史や宗教、法規・税務、葬儀の風習を問う学科試験と、接遇・司会技術、幕張技術等を問う実技試験で構成される葬祭ディレクター技能審査2級取得を目指す。	2後	45	○			○	○					
23	○			葬儀実務（納棺実習）	臨終から法要までの流れや準備・運営に必要な業務を学ぶ。	1前	15	○			○	○					
24	○			葬儀実務（幕張実習）	臨終から法要までの流れや準備・運営に必要な業務を学ぶ。	1前	15	○			○	○					
25	○			葬儀実務（接遇・司会）	臨終から法要までの流れや準備・運営に必要な業務を学ぶ。	1後	15	○			○	○					
26	○			手話Ⅰ	手話の基本を学び、相手を理解する思いやりの気持ちを育む。	1通	20	○			○	○					
27	○			手話Ⅱ	手話の幅広い表現力を身につける。	2通	25	○			○	○					

28	○	葬祭フラワー I	生花の管理や扱い方を学ぶ。	1 前	10		○	○	○											
29	○	葬祭フラワー II	生花祭壇の設置方法やアレンジの方法を実践で身につける。	2 前	10		○	○	○											
30	○	グリーンサポート I	遺族の感情や行動の変化を学ぶ。	1 後	10		○		○											
31	○	グリーンサポート II	遺族の想いを聴き、サポートするための心構えや関わり方を学ぶ。	2 前	15		○		○											
32	○	グリーンワーク I	遺族自身が気持ちを表現するための手法を学び、サポートするためのスキルを身につける。	1 後	10		○		○											
33	○	グリーンワーク II	遺族自身が気持ちを表現するための手法を学び、サポートするためのスキルを身につける。	2 後	10		○		○											
34	○	心理学（こころ検定対策）	基礎心理学の知識を学び、自分のこころに向き合い理解を深めるとともに、行動できる人間性を身につけ、こころ検定合格を目指す。	1 後	60		○		○											
35	○	祭壇設営・幕張	自宅飾りを基本とした祭壇の設営や幕張を実践で学びます。	2 前	25		○		○											
36	○	司会実習	式典の運営や進行方法、宗教・宗派による違いを学びます。	2 前	30		○		○											
37	○	接遇・受注（受注施行）	葬儀の打ち合わせにおいて必要な接客マナーや言葉遣い、商品知識などを学ぶ。	2 前	30		○		○											
38	○	公衆衛生学	遺体からの感染症や処置に対する知識を身につける。	2 前	30		○		○											
39	○	納棺師	遺体の処置から納棺までの技術を実践的に学ぶ。	2 前	25		○		○											
40	○	葬祭マーケティング論	実際の葬儀社が企画・運営しているイベントから、マーケティングの基本知識、プロジェクトマーケティング手法を学ぶ。	2 通	20		○		○											
41	○	営業力（営業力強化検定）	営業の基本知識やマーケティング、購買プロセス、クレーム対応等を通して「買い手思考」を学び、営業力強化検定を受験する。	2 前	35		○		○											
42	○	事前相談実習	葬儀への事前相談への対応方法を実習を通して学ぶ。	2 後	20		○		○											
43	○	ライフシフト・SDGs	卒業後のライフスタイルや企業が目指す姿を学び、社会に出る準備を整える。	2 後	10		○		○											
44	○	料飲サービス	サービス、ランナー、デジャップ含め、レストランや宴会場、披露宴会場でのサービスに必要な技術、立ち振る舞いなどを身につける。	1 前	10		○		○											
45	○	ホテル概論（初級編）		1 前	5		○		○											
46	○	ブライダルスタンダード	ブライダルの業態や職種、式の種類など基本的知識を学ぶ。	1 前	5		○		○											
合計				46 科目				単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：カリキュラムで定めた授業科目を全て修了していること。必修1715時		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：試験、レポート、課題提出		1 学期の授業期間	21 週

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。